

# 事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	広域圏道路整備事業（大島線外）			事業コード	3079
所属コード	83000	課等名	道路建設課	係名	道路第一係
課長名	小西一士	担当者名	沓澤功	内線番号	2729
評価分類	<input type="checkbox"/> 一般 <input checked="" type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	都市活動を支える交通環境の構築	コード	8
	基本事業	幹線道路の整備	コード	4
予算費目名	一般会計 8 款 2 項 4 目 社会資本整備総合交付金 (001-02)			
特記事項	総合計画主要事業			
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 単年度繰返 <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	24 年度	
根拠法令等	道路法、社会資本整備計画法、道路整備費の財源等の特例に関する法律、盛岡市総合計画			

### (2) 事務事業の概要

市道大島線は、県道上米内湯沢線から県道と賀線を横断し上湯沢へ通じる幹線道路である。また、沿線には盛岡市中央卸売市場があり、盛岡南公園や周辺の都市計画道路との連絡道路としての役割も大きい路線である。県道上米内湯沢線との交差部は、朝夕の慢性的な渋滞が問題視されており、地元町内会や中央卸売市場等から右折レーンの設置を強く要望されていた。

今般、国道 46 号盛岡西バイパスの県道上米内湯沢線及び大島線への接続に合わせ、同交差点の改良（右折レーン設置）を実施し、本路線の道路機能を高めることにより、円滑な交通流の確保を図るものである。

#### 【事業計画】

- ・位置 盛岡氏永井地内
- ・幅員 W=15.0m（現況 12.0m）L=70m  
（市道左野 3 号線用地・補償 W=6.0m（現況 2.5m）L=125m）
- ・平成 24 年度 測量設計、用地測量、用地・補償、地元説明会
- ・平成 25 年度 用地測量、用地・補償、道路改良工事
- ・平成 26 年度 補償、道路改良工事

### (3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

本路線は主要道路や施設を連絡する幹線道路であり、交通量増加に伴い慢性的な渋滞が生じるため地元から整備要望が寄せられていた。

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

国道 46 号盛岡西バイパスの接続に伴い、交通量の更なる増加は明白であり道路機能向上が急務

となった。

## 2 事務事業の実施状況 (Do) . . . . .

### (1) 対象 (誰が, 何が対象か)

市道、市道利用者 (車両、歩行者、沿道住民)

### (2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 見込み
A 事業計画総延長	m	0	0	0	0	195
B						
C						

### (3) 24年度に実施した主な活動・手順

用地測量 N=1 式、用地取得 A=112 m<sup>2</sup>、建物調査業務 N=1 式

### (4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 目標値
A 整備(供用)延長	m	0	0	0	0	195
B						
C						

### (5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

盛岡西バイパスの延伸による上米内湯沢線へ接続に伴い、対面する市道大島線外の整備により、市街地へのアクセス機能を高め、住民の利便性の向上、安全で円滑な交通流の確保を図る。

### (6) 成果指標 (意図の達成度を示す指標)

指標項目	性格	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 目標値
A 整備(供用)延長	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	m	0	0	0	0	195
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

## (7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	24年度実績
事業費	①国	千円	0	0	7,425	1,572
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	5,700	1,200
	④一般財源	千円	0	0	675	187
	⑤その他( )	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	0	0	13,800	2,959
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	0	0	700	700
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	0	0	2,800	2,800
計	トータルコスト A+B	千円	0	0	16,600	5,759
備考						

## 3 事務事業の評価 (See) . . . . .

### (1) 必要性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

#### ① 施策体系との整合性

市道大島線の拡幅改良は、円滑な交通流の確保につながるものであり、都市活動を支える交通環境の構築に結びつく。

#### ② 市の関与の妥当性

市道は不特定多数の市民等が利用する公益施設であり、税金を使い道路整備を行うことに問題はない。

#### ③ 対象の妥当性

対象は市道及びこれを利用する市民等であり、広げたり絞ったりすることはできない。

#### ④ 廃止・休止の影響

慢性的な渋滞が問題視されていた路線であり、国道46号盛岡西バイパスの県道上米内湯沢線への接続に伴い、更なる交通量の増加が見込まれている。したがって、事業を実施しない場合、道路を利用する市民への影響は大きい。

### (2) 有効性評価 (成果の向上余地)

本事業は、市道の拡幅により円滑な交通流の確保につながるものであり、もっと向上する余地があるかどうかということにはならない。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

道路は不特定多数の市民が利用するものであり、利用者を特定して受益負担を求めることは難しい。

(4) 効率性評価

道路の規格・構造や用地・補償費の算定は一定基準により算定されることから事業費の削減は厳しいが、計画にあつては既存施設等の利用及び経済比較等による精査によりコスト削減に努めた。

#### 4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .

(1) 改革改善の方向性

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

#### 5 課長意見 . . . . .

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

国道46号西バイパスが延伸され県道上米内湯沢線に接続されることにより、新たな交通ネットワーク構築され、市街地へのアクセスの利便性及び国道4号等の幹線道路において交通の分散化が図られ、渋滞解消などに大きな効果があることから、関連する本事業の早期完了が重要と考えている。

今後においても継続して、国等の関係機関及び公安委員会や友愛病院との協議を重ね事業への理解と協力を得られるよう努めるほか、また、地権者においても理解と協力を得るため交渉を重ね用地等の確保に努め、事業完了について西バイパス事業完了時期に合わせること。